

平成28年度第1回 花巻市総合教育会議 議事録

1 開催日時

開会 平成28年11月25日(金) 午後2時30分

閉会 平成28年11月25日(金) 午後3時50分

2 開催場所

花巻市役所本庁舎3階 小会議室

3 出席構成員

花巻市長 上田 東一
花巻市教育委員会 照井 善耕(教育委員長)
花巻市教育委員会 中村 弘樹(教育委員)
花巻市教育委員会 役重眞喜子(教育委員)
花巻市教育委員会 伊藤 明子(教育委員)
花巻市教育委員会 佐藤 勝(教育長)

4 説明等のため出席した職員及び事務局

教育部長 市村 律
教育企画課長 岩間 裕子
小中学校課長 沼田 弘二
教育企画課長補佐 佐々木英智
教育企画課係長 小原 正吾
教育企画課上席主任 佐々木晶子

5 議題

協議 (1) 花巻市内児童生徒の学力・学習状況等について

6 議事

(1) 開会

○市村律教育部長 ただいまから平成28年度第1回花巻市総合教育会議を開会いたします。はじめに本会議の主宰者であります上田市長からご挨拶をお願いいたします。

(2) あいさつ

○上田東一市長 今年初めてになりますけれども、花巻市総合教育会議を開催させて頂きまして、お忙しいところお集まり頂きまして大変ありがとうございます。花巻の学校について学力というのは大きな問題ですけれども、今日はそれを中心に現況から報告いただきまして、その後に議論いただくという予定だと理解しております。大切なことでございま

すので、ぜひ皆さんの忌憚のないご意見頂きたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○市村律教育部長 続きまして教育委員会を代表し照井教育委員長からご挨拶をお願いいたします。

○照井善耕委員長 市長さんには本当にお忙しいところ、こういう機会を設けていただきましてありがとうございます。花巻の子どもたち、学習もスポーツの方も文化活動の方も一生懸命がんばっております。先生方もそれぞれの持ち味を生かして頑張っているなどは学校を訪問しながら感じてきたところですが、今日は学力向上ということでございますけども子どもたち一人ひとりを1人の人間として全体的に理解しながら、子どもたちにとっての学力向上の意味というのはどういうことかをつかまえながら施策を推進していければなと思っております。どうぞ、ご指導よろしくお願いいたします。

(3) 協議 花巻市内児童生徒の学力・学習状況等について

○市村律教育部長 ありがとうございます。それでは次第の3番目の協議に入らせていただきます。ここからは花巻市総合教育会議運営要領第3条第2項の規定によりまして、上田市長に議長をお願いいたします。

○上田東一市長 それではよろしく申し上げます。花巻市内児童生徒の学力・学習状況等についての協議に入ります。

事務局より説明をお願いします。

○沼田弘二小中学校課長 小中学校課長の沼田です。よろしくお願いいたします。

それでは資料に基づいて説明させていただきます。大きく4つの内容についてお話しする予定でございます。1つ目が花巻市内児童生徒の学力の状況、2つ目が学力向上に向けた花巻市小中学校の取り組み、最初にお話ししました学力の状況は、資料1、3、4を中心に最初の説明をいたします。大きな2つ目学力向上に向けた花巻市の取り組みということで資料2のアクションプランを中心に説明いたします。大きく3点目ですが、花巻市内の子供たちの生活の実態ということで資料の5をご覧くださいながら説明したいと思います。最後4点目ですが学力向上に向けた4者の取組ということで、資料6、1枚ものですが、これを使いまして説明したいと思います。以上大きく4点、資料ナンバーが若干前後いたしますけれどもご了承いただきたいと思います。

それでは大きな1点目、花巻市内小中学生児童生徒の学力の状況ということで、お話ししたいと思います。資料ナンバーの1をご覧ください。この資料は花巻市のホームページにも掲載しておりますが、全国学力・学習状況調査から見える花巻市の状況というタイトルの資料でございます。内容につきましては、平成28年度の全国学力・学習状況調査、以下全国学調とお話ししますが、これの結果、及び考察について掲載されております。全

国学調につきましては毎年4月中旬第3週に行われており、対象は小学校6年生と中学校3年生、全国ほぼすべての市町村で実施されているものです。この結果が9月29日に公表されました。花巻市内の状況について以下に掲載しております。まず1つ目の表ですが、教科調査の平均正答率の一覧が掲載しております。小学校につきましては、国語A、国語B、算数A、算数B、中学校についても、国語A、B、数学A、Bということで実施されておりますが、花巻市の結果はその表に掲載されている通りです。具体的には、小学校で国語Aが73%、国語Bが59%、算数Aが78%、Bが47%、中学校も順に76%、67%、59%、41%となっております。中段と下段に岩手県の数値と全国の数値を掲載しております。小学校につきましては、おおむね好ましい傾向というふうに捉えております。国語B問題を除くすべての教科で、全国平均正答率、県平均正答率と同等の結果となっております。国語B問題については、県平均より1%下回りましたが、全国の平均正答率は上回っているという状況です。中学校につきましては、昨年度、全国や県の平均と比べてどの教科においても下回っている状況でしたが、今年度は国語A・Bで全国平均と同等になりました。また国語Bでは県平均正答率を上回る結果となりました。数学A・Bについては全国平均正答率を下回りましたが、県の平均正答率と比べてみますと、上回る又は同等という結果です。平成27年度との経年比較では国語、数学とも改善の傾向が見られます。下の表は中学校のみ取り出したものです。昨年度の全国比、県比と今年度の同じものを比べたものがこの表になっておりまして、例えば、国語Aにつきましては平成28年度、県比では0です。昨年度-2ということでしたので、昨年度に比べると国語Aの県比の数値は2ポイント上昇したというような見方が出来るかなと思います。同様に国語B、国語A、あるいは全国との比較についてもすべてプラスの傾向ということですので、全国比平均正答率そのものは届かない状況にありますが、昨年度との比較の中では上昇しているということでこの表を載せております。

続きまして、平成28年度児童生徒質問調査の結果について、この次に載っております。教科調査と同時に児童生徒質問紙を実施しております。その結果、全国や県よりも肯定的な回答が上回っている項目ということで、太字で4項目あげております。「毎日、朝食を食べている」「家で、自分で計画を立て勉強している」「ノートに、学習目標とまとめを書いている」「算数、数学の問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」というような項目が上回ってございました。全体的な傾向ですが、小学校では学習状況にかかわる質問項目で好ましい傾向、中学校では生活習慣にかかわり項目で好ましい傾向がみられております。

課題といたしましては、家庭学習の時間が少ないということで、この課題が継続しているという状況です。今年度も全国や県に比べて家庭学習時間が短いということが分かりました。小学校では1時間以上取り組むという児童は多いのですが、2時間以上となると下回る。中学校では1時間以上学習している生徒は、全国、県よりも少ないということで、この家庭学習時間の確保は継続的な課題ということです。グラフで表しているものが次のページにございますので、そこを見ていただきますと、家庭学習時間の状況が分かるということになります。

次に、教科調査と児童生徒質問紙調査の関連から分かること、ということではいわゆるクロス集計で、教科調査で得点の高い集団と質問紙調査の項目との関連について、そこに掲げております。時間の関係で全部の説明は省きますが、例えばですけれども、「朝食を毎日食べていますか。」太字で書いてある部分ですが、あるいは、「普段、1日あたりどれくらいの時間ゲームをしますか。」などという部分と、学力との関係が、統計上、関連があるということが分かったところです。以下、クロス集計等の記述が続いておりますが、こちらの方は一旦、省略したいと思います。

次に、資料の4について説明いたします。ただいまは、全国学調の結果でしたけれども、県学調、県の学習状況定着度調査というものを毎年行われております。この結果がこのたび出ましたので、これについてお話ししたいと思います。資料4、平成28年度県学調結果一覧と前年度比較ということです。取扱注意ということですが、ホームページに掲載する予定をしております、分析を進めているところですが、速報版ということでご覧いただければと思います。

実施は、平成28年度の10月上旬です。毎年、岩手県において実施しているものです。実施教科及び学年ですが、小学校は5年生の4教科、中学校は2年生の5教科で実施しております。

平成28年度の教科調査の結果ですが、小学校5年生の国語65.8、小学校5年生社会70.0、同じく算数69.1、理科63.5という結果になっております。中学校に関しては、国語72.3、社会46.4、数学52.6、理科47.6、英語40.2という結果になっております。

岩手県と比較した場合ですけれども、小学校については国語と社会と理科で県平均正答率を上回っている、もしくは同等であるという結果になっております。算数については下回っておりますが、1ポイント以上の差はありませんでほぼ県平均と同等と言ってよい結果なのではないかなと思います。中学校ですけれども、国語、社会、数学で県平均の正答率を上回っております。理科は-0.1ポイント、英語は-1.6ポイント下回るという結果になりました。この表の真ん中に、県比経年として、上矢印、下矢印が書いてありますけれども、これは昨年度、平成27年度の結果で県平均との比較についてどういう変化になっているかというポイントになっております。小学校については国語・社会で上回りましたが、算数・理科で下回っているということですが、中学校においては5教科すべてにおいて、県での比較において上昇しているという結果になっております。花巻市学力向上アクションプランというのがあります。この後説明しますが、これに照らし合わせてみますと、県平均正答率以上というのが9項目中、今回は5項目で達成されたということで、全国学調についてもそうですけれども、昨年と比べて達成度は高くなっているというふうに分析しているところです。

資料戻りますが、資料ナンバー3、すみませんこれを先に説明しなければなりません。先ほど全国学力・学習状況調査の結果の正答率の推移ということでお話ししましたが、実は全国学調は平成19年度から実施されておまして、これは公表していない部分ではあるんですけど、平成19年度から平成28年度までの調査結果の推移ということで

一覧で載せております。細かい表になっております。

すごく大雑把な言い方なんですけれども、見ていただきますと網掛けになっている部分が全国・県と比べてマイナスの部分、右2つの部分になります。「県差」「全国差」ということで、網掛けの部分が下回っている部分になるわけですが、小学校については白い部分、県とか全国を上回っている傾向がずっと続いているということが分かると思います。特に小学校の場合は、全国と比べても白の部分、上回っている部分が継続している状況が分かります。一方で中学校ですが、網掛けが少し目立つと言いますか、特に、県と比べた場合にはややプラスの年度もありますが、全国と比較するとなかなかマイナスの傾向がある、これが継続しているというような状況がございます。

大きな1つ目、児童・生徒の学力の状況ということでお話しいたしました。

続きまして、学力向上に向けた花巻市の取り組みということで、資料の2をご覧くださいと思います

このような状況に対して、花巻市として、あるいは小中学校として、どのような取組を行っているかということで若干説明したいと思います。前述した花巻市学力向上アクションプランということで、平成28年の2月に策定したものであります。1番「はじめに」は省略いたしまして、2番「平成26年度における花巻市の現状と27年度の実績」ということで、先程来お話ししておりました、全国学力・学習状況調査、あるいは岩手県学習定着度状況調査の状況については、(1)、(2)に書いてありますが、先ほどお話ししたような状況になっております。また、2ページの(3)、児童生徒・学校質問紙調査についても、傾向についてそこにかいつまんで載せております。さまざま特徴的な事が書いてございます。それを基に、3ページになりますが、3番「諸調査から見える花巻市の課題」ということで、このアクションプランでは4点課題として取り上げております。1点目については、各学校の組織的な取組ということ課題の1点目として挙げております。課題の2番目として、学校ごとの具体的な目標の設定、そしてその目標達成に向けた組織的な取組ということを挙げております。課題の3点目ですが、子どもたちが意欲を持って学習に取り組んでいないということで、子どもたちが主体となって体験を通して理解・納得する授業の実践。課題の4点目として、家庭学習時間のことについて触れておりますが、家庭学習のための時間確保が必要だということで、テレビやスマートフォンの使用時間を減らすことや、部活動・スポーツ少年団の時間の適正化ということ課題として挙げております。

これを基に目標を立てました。4番です。「平成27年度から30年度までの目標」として、「全国学力・学習状況調査及び県学習定着度状況調査において、平均正答率以上を目指します。特に、中学校の学力を向上させます。」このような目標を立てました。その目標達成の為の具体的な方策、4ページ、5ページになりますが、大きな5番になります。取組の大きな3本柱と言えましょうか、方策を3つ立てております。

方策の1点目、「各校の組織的な取組」これを具体的な方策の1つ目といたしました。具体的な取組としましては、学校・家庭・地域では、PDCAのサイクルに基づいた組織的な取組の支援ということです。目標を立てて実践評価検証するということです。また、

学校や教育委員会の取組としては、組織的な授業研究への支援、特に教員相互の授業参観の推進を挙げています。教育委員会の取組として大きく2つあります。1つ目は、各種調査の分析と目標達成に向けた組織的な取組への支援ということです。また、教育委員会の取組の2点目としては、授業サポーターによる少人数指導の充実ということで、市の授業サポーターを小学校8名、中学校3名に配置しております。

方策の2つ目ですが、「授業改善の推進」ということで、具体的な取組としましては、学校では、分かる授業・子供が主体となる授業実践の推進。学校や教育委員会では、2つありますが、1つ目は自己研修の推進。一人一研究の活用。2つ目としては、授業実践公開研究会の充実。各学校、市から研究指定をしております、それぞれ、学校公開、研究会等行っております。このようなことを行いながら実践交流を行っております。また、教育委員会としては、中学校の授業改善のモデル提示ということで、研究実践等進めております。また、指導主事が配置されておりますので、学校訪問あるいはふくろう講座等の開設で取組をしております。

方策の3つ目ですが、「家庭学習の充実」を挙げております。具体的な取組としましては、学校としては、授業と連動した家庭学習の取組。学校・家庭・地域・教育委員会の取組として、家庭・地域と連携した家庭学習の取組。2つ目として、小中連携による家庭学習のやり方の共有。教育委員会独自の取組としては、スポーツ少年団や部活動の在り方の研究ということで、適正な活動時間等についての取組をしていきます。

以下、各校で実施するPDCAサイクルの例等が次のページに挙げられておりますが、この部分については省略いたします。

次に大きな3つ目になりますが、子どもたちの生活実態ということで、この場で紹介したいと思いますが、資料の5をご覧くださいと思います。資料ナンバー5の1と5の2と分かれておりますが、5の1の方が小学校の5・6年生の児童を対象とした生活時間アンケートの一部抜粋です。5の2が、中学校1・2年生で実施した生活アンケートの一部抜粋となっております。この資料を準備した意図は、先程来お話している家庭学習時間がなかなか取れないということに関して、ではいったいどのように時間を過ごしているのということで説明す資料になります。資料ナンバー5の1のめくって1枚目ですが、(5) スポ少等の活動日数とあります。小学校5・6年生の子供たちで、スポ少に参加しているという子たちに対するアンケートです。週に何日位活動しているのかということに関してですが、グラフを見ますと、夏場も冬場も週2日程度のスポ少の活動が多いということが分かっております。中には毎日という子供も何パーセントかいるという状況です。また(6) スポ少等終了時刻ですが、夏は6時～7時というのがピークとなっておりますが、冬場になると時間数は減るんですが、ピークになっているのが、7時～8時、8時～9時で、中には9時過ぎまで活動している子供も数パーセントいるという状況です。

次のページですが、7番、平日の活動時間はどうなっているかということですが、1～2時間、あるいは2～3時間がピークになっておりますが、中には3時間近い練習している児童もいて、かなりの時間を活動で取られている子がいると捉えています。また、(8)の休日の活動時間ですが、平日と同じ時間で活動しているというのがありますが、4時間

以上の活動というの中には出てまいりますし、5時間以上、夏場ですとかなりのパーセンテージになります。スポ少の遠征等で1日ばかりという分もあるのかなということを考えています。

次のページ、(9)(10)家での学習時間についての認識と書いてありますが、これは子供たちが家で家庭学習の時間が確保できているのかどうかという質問です。これに関して、それほど割合多くはありませんけれども十分に家庭学習時間が確保出来ていないなどという子供が13パーセント、14パーセントぐらいのところであります。この家庭学習時間が確保出来ていないと答えた子供たちに対して、では何で時間を取られているのかと質問したのが、この下の2つのグラフになっています。家庭学習時間が確保できていないと回答したその理由の多くは、ゲームで時間を取られる、あるいはテレビの時間が多い、第3位はスポ少の時間と回答しております。小学校5・6年生になると、スポ少の加入率が高くなってまいりますので、パソコン・ゲームが一番多いわけですが、このスポ少というのを時間が確保できていない理由にあげている児童もいるというような実態が分かりました。

資料ナンバー5の2になります。中学校で同じようなアンケートを取っております。中学校に関しては部活動ですので、部活動の終了時刻についてグラフ化しております。中学校の部活動終了時刻、6時から7時、冬場では6時前がピークになっておりますが、中には8時、9時という生徒もかなりの割合になっておりますし、9時過ぎと答えた生徒も見られます。

また(7)ですが、いわゆる朝練習に取り組んでいる子供も何割かはあるということです。時間になりますと、30分以内が多いということです。

次に平日の活動時間、(6)ですが、これに関しては、夏場でありますと2～3時間がピークになっております。冬場は1～2時間で、若干短くなっております。3時間4時間、平日の活動時間に費やしているという生徒がいることが分かりました。

(8)の休日の活動時間ですが、2～3時間が夏場・冬場共にピークではありますが、それを超える3～4時間、4～5時間というような回答もあります。4時間以上の割合が2割近くあり、これが固定化している感があります。

(9)(10)家での学習時間についての認識です。家庭学習時間が確保できているかと、先程小学生で見たときは14パーセント前後だったわけですが、中学校になると、家庭学習時間が十分に確保出来ていないと答えた生徒が3割前後出てまいります。そしてこの3割前後の生徒たちの確保できていない理由が下にありますが、小学校同様、パソコン・ゲームというのが多いんですが、特に夏場ですけれども部活動と挙げた生徒が2番目に多いことになります。パソコンやゲームについては家庭での節制の部分なんですけど、部活動の場合には学校での部活動等の絡みが出てまいりますので、この時間等についての方向性を示す必要があるとこの資料ではまとめております。

最後になりますが、今後の方向性ということで、学力向上に向けた4者の取について、資料6をご覧くださいながらお話ししたいと思います。

学力向上に向けた4者の取組ですが、4者といいますのは、学校・教育委員会・地域・家庭の4者で、これについて図に表しております。

まず、学校の取組。先程来お話しておりますが、アクションプランの策定と取組を教育委員会でも策定しておりますし、各学校にも作って頂いております。前後しますけれども、学びフェストの策定と取組ということで、各学校では学びフェストと呼ばれる目標達成型の学校目標をそれぞれ立てておりますので、この中で特に学習・学力向上に向けた取組をして頂いているところです。また、少人数指導の充実ということで授業サポーター等活用して進めて頂いております。また、わかる授業づくりということで、学校の教務主任や研究主任を中心とした校内研修の実施等の取組をしております。また、ふれあい共育推進員、特別教育支援員さんのことですが、これらの支援員さん等を活用した、個に応じた学習支援を行っております。また、先ほど部活動の実態もお話ししましたが、部活動の適正化を図るために学校でも取り組んでおります。さらに情報メディアに関する指導等も行われております。

教育委員会としましては、学力向上推進事業を実施しております。そこに具体例が書いてありますけれども、県事業と連携しながら先生方に対する研修会等行っております。また、全国学調の結果分析及び提供、先程来お話ししているホームページに載せている資料等になります。また、外部講師を招へいた模範授業、授業サポーターの配置、アクションプランの策定更新と学校支援、学習定着ワーク、教材等を配布しているということ、また、新規事業として学力向上に関して今検討しているところです。また、個に応じた支援体制の充実ということで、ふれあい共育推進員、生徒支援員、教育相談員等配置して体制を組んでいるところです。

地域における学力向上として挙げられるものとして、左下に掲げておりますが、一例としてですが、教育振興運動などが行われております。内容としては、読書週間、情報メディアへの啓発、基本的な生活習慣、長期休業中における学習支援等の取組が行われております。

家庭の部分ですけれども、各家庭においては家庭学習環境の整備を行って頂いております。子供たちへの励まし等、あるいは子供が勉強に集中できるような環境づくりを行って頂いております。また、ノーメディアデーの取り組みということで、学校からのお知らせ、連携しての取り組みとなると思いますが、テレビ等を見ないで対話の時間確保等の取組を行って頂いております。また、家庭での読書、基本的な生活習慣の確立ということで、それぞれ取組が行っております。家庭での取組について、一部学校訪問等で学校の先生方からお話をお伺いすると、家庭によるばらつきがあるなど、きちっと見て頂いているところは見て頂いているけれども、そうでないところもあるという声も聞こえておまして、この辺りさらに取組が必要と捉えている部分もございます。

以上、大きく4点について、資料を使いながら説明をいたしました。以上で説明を終わります。この後のご協議について、よろしく願いいたします。

○上田東一市長 沼田課長、ありがとうございました。ただいまの説明につきまして、皆様からご意見ご質問をいただきたいと存じます。

ご意見ご質問等ございますでしょうか。

○上田東一市長 それでは、中学生の学力調査結果が上がっていますけども、この要因はなんだとお考えでしょうか。

○沼田弘二小中学校課長 資料の2でお話ししましたが、学力向上アクションプランについて市教委で示しましたが、これについて各学校でも意識的に取り組んでいただいたということがあると思います。あとは、教育委員会の方でも人的な授業サポーターを配置して、少人数指導に取り組んで頂いたというようなことで、各学校、それから教育委員会と連携して取り組んだ結果ではないかと捉えております。

○上田東一市長 まあ1年ですから、まだそんなに長い間経ってないので、ただ本当に具体的な成果が表れたと確認するまでは時間がかかるとは思いますけれども、ぜひがんばっていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

○上田東一市長 そのほかご質問ご意見等ございましたら、伺いたいと思います。

○照井善耕委員長 最後のところに、学力向上に向けた4者の取り組みということですが、各学校で各学校独自のアクションプランを使ってということでしたけど、その中にですね、特に中学生なんか5者の取り組みという発想でやっている所はないですか。いわゆる生徒が学力の問題を自分のこととして真正面から捉えて、いろんな学校とか地域とか家庭とかの取組を理解しながら、「自分はそれではこういうふうに頑張る。」とかね。そういう実践っていうのは出ていないでしょうか。

○沼田弘二小中学校課長 具体的な各学校のアクションプランの資料は手元にございせんが、もちろん子供たちも自分たちの力をつけるんだという意識を持って取り組んでいると認識しております。例えば、特に中学校になりますと、委員会活動、生徒会活動等がございまして、そのなかで学習の専門委員会、今ちょうど各学校では期末試験の最中なんですけど、それに向けてしっかり家庭学習時間を確保しましょうですとか、中には予想問題を各教科作って、自分たちでそれに取り組んで力を確認しようですとか、そのような取組は行われていますので、子供たちも自分たちで自分たちの力を高めるんだということで自覚して取組をしていると認識しております。

○上田東一市長 そのほか、はいどうぞ。

○伊藤明子委員 やはり学力向上に向けた4者の取り組みの所で、家庭によるバラツキが大きいとありましたが、格差の拡大というのは具体的にはどういうことでしょうか。親が経済的に豊かだと子供がというようなことでしょうか、それともまた全然違う、どういうことでしょうか。

○沼田弘二小中学校課長 これは、教育委員会で各学校を訪問する、教育委員の皆様にも参加して頂いておりますが、学校懇談会等で先生方と懇談する中で、家庭学習とか、学習面だけで本当は無いんですが、忘れ物とかですね、生活習慣について家庭でもっと子供たちに目を向けて頂きたいなというような声が、今年度特によく聞かれたなと感じております。子供たちはもちろん自分の力で家庭学習等行うわけですが、その陰でお父さんお母さんたちが見てあげて、まる付けをして頂いたり、そういったところは子供たちが力を伸ばしているなというふうに捉えておりますので、こうした中で、きちっと取り組まれて力を伸ばしている子もあれば、もう少しみてあげればもっと力を発揮出来るのになというのに分かれているとそういうふうに考えております。

○上田東一市長 はい、よろしいでしょうか。それでは他に質問ございますでしょうか。どうぞ。

○役重眞喜子委員 各学校の先生方の現場をずっと授業も見てきていますので、現場の授業改善の取り組みというのは非常に素晴らしくなってきたなということは実感として感じています。10年くらい前と比べても格段に工夫はされているなというふうに思うんです。だからこそということなんですが、この学力調査の結果とかに対する教育委員会としての分析というのは、私はやっぱりこれでは物足りないんじゃないかと、前もちょっと話させて頂いたんですけど、経年の平均点数を見て国の平均より良いとか悪いとか言っているレベルではもうないと思うんです、これからやらなきゃいけないことというのは。例えば、1学年が何百人いたとすれば、いわゆる下位の子供たち、平均値周辺の子供たち、それからある程度上位の子供たち、その時にやっぱり例えば落ちてきているという時は、下位の子たちが落ちてきているのか、あるいは下位の子たちが量的に人数の割合が増えてきているのか、あるいは平均的なまとまりの子たちの力が全体として落ちてきているのか。たぶん私は平均の子供たちをきちっと上げていくということが、たぶんものすごく大事、上位と下位がどうでもいいということではもちろん無いんですけど、そこら辺の分析をきちっとした上で、教育委員会として何にどう力を入れていくのかという部分を見通して行かないといけないのかなと思っています。データがあるわけなので、私はこのデータをもっとしゃぶり尽くすべきで、もったいないと思うんですね。たとえば小学校6年と中3の学調があって6年生の時にとても良かったのに、中3で落ちている学年。6年生の時に下がっていたのに、中3で上がった学年。ていうのを比べてみた時に、その間の3年間・4年間の指導にどういう違いがあったかとか、ということもしようと思えば分析ができる訳ですので、その辺りをもう少し突っ込んでやっていかないと、ここに書いてあることは素晴らしいことでももちろん必要なこと、全部そうなんですけど、それ以上に結びついていかないなということもここ5・6年ずっと考えていました。なので、その辺りのことをここには書いていないことをもっと深堀されていることもあるかなと思ったりしまして、それも含めてちょっと聞いてみたいなと思います。

○沼田弘二小中学校課長 ありがとうございます。ここに表れているのは、本当にパッと一見して分かる代表的な平均正答率ということですが、市教委としてももちろんそこだけに留まらないで、経年の比較はもちろんやっておりますし、あるいは、先ほど委員さんお話の通り、小学校6年生の時にこの位だった子が3年後の中学校3年生でこうなっているというような学校ごとの物ですとか、あるいは四分位分析というのがあるんですけども、子供たちを4分の1づつに分けてですね、どの層の子供たちに手当てをしていくべきか、とかですね、という辺りも、完璧ではないですけども、担当指導主事を中心にさまざま分析をしてもらっているという状況ですし、その結果を持って各学校に訪問して、この辺りの集団の力をこう伸ばした方が、というような事も、これも十分ではないですけども、やろうとしている、実際に訪問しながら行っているという状況もありますけれども、十分すぎるということはないと思いますのでもっともっとデータを活用して学校の方の支援に役立てていきたいなとその通り考えておりますので。

○役重眞喜子委員 今おっしゃった階層別の分析っていう中で、なにか、ここ数年の市としての傾向の中で、把握していることはありますか。

○沼田弘二小中学校課長 今ここで端的にこうお話できるところまで、担当の部分では大分詳しく把握はしているとは思いますが、今ここで詳しくお話しできる所はございませんので。きちんと把握して具体的な動きに役立てるような分析を進めていきたいと思えます。

○上田東一市長 今のお話、非常に重要なとこだと思うんですね。どこまでそういう資料を公開できるのかという問題もあります。それから、どこまで教育委員会で委員の方々に公開して、教育委員の方々の施策についての議論に役立てるべきかということもありますね。それから、今、沼田課長おっしゃった中で、担当レベルは掴んでいるけども、沼田課長はそこまで細かいこと掴んでないという話をしましたね。そうすると、どこのレベルの情報をどこまで開示してどういう議論をしてもらうか、ということについての整理が必要な気がしますけどね。そこはぜひお考えいただいて、この会議でお話いただくかどうかは別にして、教育委員会のレベルでどこまで教育委員の方々、あるいは部長、課長レベルまであげて、それを施策に結び付けていくかということについては、次の機会には議論していただく必要がある気がしますけど。いかがでしょうか。

○沼田弘二小中学校課長 どのレベルまでの情報を公開するかということで、ひとつ情報の量が莫大になって、中々一つの会議で取り扱えるかどうかということはあるんですけども、ただ、より子供たちの状況を具体的に共有してどういった取り組みをしていけばいいのかということ是非常に大事だと思いますので、さらに細かい部分について共有出来るように取り組んでいきたいと思えます。

○上田東一市長　ですから、どこまで開示しなさいと言っている訳ではなくて、教育委員会の方々にご意見伺う部分について、どこまで開示すべきなのかという事務局の考えを示して頂いた方が良いんじゃないかと思ったんです。その上で、実際ここまでもっと開示すべきだという委員の意見があれば、それも参考にして頂いて、開示して頂いて議論するということが必要じゃないのかな、あまり事務局が事務局の判断だけでどこまで開示するか決めるのはいかがなものかなとそういうことですね。

難しいと思いますけどね。大事なことのような気がしますけどね。やっぱり、教育の方向を作るのは教育委員会ということがあるわけですから、その時にあまり開示しないで決めてくださいと言っても、なかなか難しいところがあるんですよね。

あと、ございますでしょうか。

○佐藤勝教育長　今に関連して、教育委員会で精密な分析というのはある程度やっているわけなんですけど、ただ一方で校長会としてもそれぞれの学校の分析データを持ち寄って、それぞれの方策を発表しあったり、練りあったりしている例があります。そして、それを実際に学校の取り組みとして反映しているということで、逆に言うとそれぞれの学校の特性がございますので、そういったものも、もちろん参考にしていかなければならない訳なんですけど、最近の校長会との協議の中で、その仮説に立って実際に実践していることが沢山ございます。例えばそれは、1つは少人数指導あるいは習熟度別指導、それからもう1つやっぱり小学校との学びの接続性というものについての反省と評価ということでやっていて、それで結構良い成果を出しているところもありますので、データということももちろん大事ですけども、そういった実践面から探っていくということも一つ大事なのかなと思います。

○伊藤明子委員　付け加えるようで申し訳ないですけど、学校に私たちが出掛けて行くということは、とても現場のお声を聴く事が出来るので良いなというふうに思います。ちょっと耳が痛いこともあるんですけど、でもやっぱり先生方とか実際その場所を見て、ちょっとこの場所はひどいなというようなものもありますので、その場所は非常に私は重要な所だなと、なかなか時間設定で行けなかったりする事も有りますけれど、私はそういうのはちょっと現場の先生たちには負担かもしれないけど、私たちが行くことを増やして頂ければすごく吸収できて良いんじゃないかなというふうに思っています。

○上田東一市長　教育長さんがおっしゃるのはその通りで、やっぱり専門家がしっかり考えるのは大事なので、校長会でやるのは非常に素晴らしい事だと思うんですね。ただ、教育委員会の制度というのは、専門家以外の方が普通の目で見えてどうなのかということについて考える、そういう制度でそれはその教育委員会の大きな方向を決めていくというのが制度としてあると思うんですね。そうすると、その方々にやっぱりどこまで出すのかというのは、やっぱり非常に大事な事だと思うんです。それからさっき、伊藤さんがおっし

やっていたように、教育委員の人たちが学校にアクセス出来るというのも非常に大事なので、やっぱり現実の問題だけじゃなくて理念からして、どこまで教育委員会の方々に見て頂いたり、情報を受け取って頂いてご意見頂くかということを考えることは非常に大事だと思うんで、専門家の方々はもちろん一番良いわけですけど、その部分についてやっぱり専門家だけでやらないということは重要じゃないのかなと私は思います。

あと、よろしいですか。

目標を設定して取り組んだ学校の割合、4ページですね、4ページの一番上にあります。これ小学校の方が中学校より進んでいるわけなんですけど、これはなんか理由があるんですか。中学校が遅れ気味だというのは特に中学校で目標を設定していない学校がまだある、多いということについてなんらかの原因があるんでしょうか。

○沼田弘二小中学校課長 小学校に関しては、学習状況調査も実施する回数が限られておりまして、ピンポイントにしやすいという状況があります。中学校になりますとこういった全国調査以外に、いわゆる実力テスト的なものがあったり、業者テスト的なものがあったりということで、回数が多い中でこの全国とか県の学調に関して、今回これ位の目標にしようというのがなかなか立てづらいという状況なのではないかなと思います。

○上田東一市長 それではそれはやむ得ない理由があるということですね。特にその中学校の校長先生達の意識が違うということではなくて、なにか理由があって遅れているとそういう理解でよろしいでしょうか。

○沼田弘二小中学校課長 教育委員会としては一つの指標としておりますので、ピンポイントで目標を設定して頂きたいのですが、学校の各教科の先生方にとっては、なかなかこちらが集中して頂きたいほど集中できないという実態があるかもしれないです。

○佐藤勝教育長 結論とすると、やっぱり組織的な取り組みとかそういった一体感ということでは中学校の方がやっぱり鈍いんだろうなと思います。それはさっきの数字の中で全体的な取り組みということについて、数字はまだ7割ほどなんですけれども、それはやっぱり鈍いんだろうな。それは、一つは教科で物を見るときかそういったふうな見方で、その子一人の全体的な学力ということについての認識をみんなで見合う、それから教科を超えて指導法をお互いに練りあったり、言い合ったり、見合ったりそういった調整というのは中学校は若干遅れているのかなと思います。そしてもう一つは、全国の学力テストあるいは県の学習状況調査これをひとつの1年間の学力評価のサイクルとして、今お話がありましたけれども、サイクルというところについて認識がまだ小学校に比べるとまだ若干鈍いかなと、そういったことがあります。だいぶ良くなってきましたけれども、その辺の組織的な取り組みということについてが改善点だというふうに考えます。

○上田東一市長 その他、今までの議論の中での事でも良いですし、別なことでも結構で

すけども、なにかございますか。どうぞ。

○中村弘樹委員 学調とかの結果も踏まえてなんですが、家庭学習の大事さというのを教育委員会の方で言っているんですけども、その中で、生活アンケートの最後の部分に、評価みたいなのが書かれているんですけども、その中で方向性を示していくと両方書いているんですけども、その方向性というのが、具体的に見えているのか見えてないのかお聞きしたいなと思います。

○上田東一市長 はい、どうぞ。

○沼田弘二小中学校課長 これは、今まさに課題と感じている所でありまして、具体的に部活動何時間以内にしましょうですとか、休みの日を何日設けましょうという、具体的な取り決めの物はまだ確立出来ていない状況です。これは全国的にも全県的にも同様の状況となっているところで、団体団体です、例えば校長会や県の方でも月に2回は日曜日は休みましょうとかというのは、いままで歴史の中でさまざま提案等があったんですが、それがなかなか徹底できていない状況がありまして、これは花巻市も同じような状況になっております。これに関して方向性を示して、動きは多少やっているんですけども、具体的な方向性というのはこれからの課題というふうに捉えております。

○上田東一市長 非常に大事なご指摘を頂いたと思いますけども、前にも話しましたけども、私自身は中学校の時、クラブ活動中心の生活をして、それはそれで非常に良かったと思っています。ただそこで考えなきゃいけないのは、我々はまだ子供たちの数が多い時代ですから、クラブ活動も強制ではなかった。ようするに、やりたい人が一生懸命やっていたということがあったんです。今、必ずしもそうならない中で、やりたくなくてもやらされている子供はいないのかという視点は大事じゃないのかな。先ほどの時間の問題は別にしましてですね。その辺は大事じゃないのかなということ。それから、やっぱり先生方がクラブ活動によって疲弊していないのかということを考えてみる必要があるんじゃないかな、その部分で先生方の労働環境が非常に厳しくなっているのであれば、ある程度ご父兄の理解を得ながら、適正化していくのは必要じゃないのかなと思います。その点をお考え頂ければありがたいなというふうに考えます。

○役重眞喜子委員 すみません。

○上田東一市長 はいどうぞ。

○役重眞喜子委員 最後のページの関係で先ほど伊藤委員さんが家庭の格差のことをご指摘されたんですけど、このことに関しては私たちも委員が学校現場に行く中でやっぱりこの学校からも先生方との意見交換のなかで、肌感覚としてそういうの伝わってきている

なと思っています。それで、4者の取り組みの中で地域なんですけど、確かに教育委員会がいつも地域とイメージする時に必ず教振とかPTAとしかならなくなっちゃうんですけど、地域というのはもっと幅広いものだと思います。ここにある教振の取組も非常に1つ1つ大事ですし、やはり家庭の格差が拡大しているというのはやっぱりどうしても、いわゆる落ちている家庭、いろんな意味でですね、経済だけじゃないと思うんですけど、そういうご家庭に対して、あるいはお父さんお母さんに対して、子供にダイレクトに地域がどうするということもありながら、その家庭、親に対してどう地域で声を掛けてあげるか、支援していくか、支援といってもその通りですけど、必ず見守る目があって、何かあったときは地域に相談できるというものがあると。そういう家庭に限ってなかなか地域と交わろうとしないので難しいことではあるんですけど、そこが今日せつかく市長さんと教育委員会の話し合いということの中では、地域コミュニティの役割や、福祉部門との連携ということをやったりその具体的に考えていく、理念としてはそうだよなというふうにみんな言うわけですけど、じゃあどうしていくのかということ、せつかく今日この機会でしたので、この4者の取り組みの中で、そこに課題意識を持って皆さんの知恵を出せば良いのかなというふうに感じたところです。

○上田東一市長 あ、一方プライバシーというのは大事にしないといけないから、あんまり必要以上に地域が入りすぎるという訳にもいかないんですよ。そこはコミュニティ会議で地域の助け合いといっても、コミュニティ会議とかそういう大きな組織で、ずかずか入っていくというのはなかなか難しいんじゃないかな。そうするともっと小さい単位で普段の付き合いの中でどこまで出来るかということで、ちょっとそこでなんか解決しようとするのは、私は少し無理があるんじゃないかなと感じますね。後は、経済的な格差うんぬんというのは、それは守ってやるようにいろんな施策をしなくちゃいけないし、あと今、教育委員会の方で、奨学金制度についてそういう観点を含めてですね見直しを今検討していただいている状況ですが、そういうことで出来ることをやっていくということじゃないのかなという気がしますけどね。

○役重眞喜子委員 コミュニティと言ったのは、コミュニティ会議ということではないですよ。地域がどうするか。コミュニティ会議はもちろんその中で一定の役割はあると思うんですけど。例えば子供会とかいろんな地域のコミュニティがあると思うんですけど。

○上田東一市長 そうなのは非常にありがたいですよ。我々子供の時も、今もそうだと思いますけど、地域のおじいちゃん、おばあちゃんたちが子供会に出てきて、結構面倒見てくれましたよね。そういうのって非常に素晴らしいし、そこでみんなでどこかに行くっていうのは昔は有りましたよね。今もあると思いますね。そういうことはやっぱりやって頂きたいし、その部分で、さっきの話じゃないですけど、コミュニティ会議でそういう支援をして、金銭的な部分を含めてね、支援して頂くみたいなことはお願いできれば良いんじゃないかなと思いますけどね。

○佐藤勝教育長 市内を見ると、学力とはまた別なんですけど、この検査で花巻で非常に高い数値を出しているのは、地域行事への参加というのはだいたい80からものすごい高い数値を出しているんです。ですから、子供たちと地域のつながりというのは、私らが想定しているのよりもはるかにこれはすごいなという数値を出していました。それをもっと分析していくと、地域行事、1つやっぱりお祭りというのが非常に大きいだろうなと思います。それからもう1つは郷土芸能ですね。そういったところでの伝承活動なり、あるいは地域活動、そこでやっぱり子供たちも地域住民として認められて参画していると、そういった意味では従来で言う社会教育なりというような手法というのが、もっともっと継続されていいだろうな、どの子も参加出来る体制、それによって今度は保護者の親と親の関係が出てきたり、あるいは縦の関係が出てきたりということで、これはとても大事なことじゃないのかなというふうに思っていました。

○上田東一市長 ありがとうございます。今の件、よろしいですか。

○役重眞喜子委員 そうですね、確かに身の回りでも、具体的に言うと田瀬の子供太鼓だったりするんですけど、この子はもう絶対学校ではどうしても落ちる、家庭環境も落ちるといって子が、太鼓だけは続けて、そこで救われているというか、大分昔の話ですから全然個人情報関係無いんですけど、そして最終的にはキチッと卒業して地域で就職して今働いている。そういうのがありますので、今おっしゃった教育長さんのご指摘がまさにその通りだと思います。

○上田東一市長 そうですね。そういうことについて、やっぱりいろいろ地域にお願いしていくということ、我々としても理念として持つ必要がありますね。ありがとうございました。

その他には、はい、どうぞ。

○照井善耕委員長 最初に、5者の取組はないのかという話をしましたけど、いろいろ検査したり調査したりして、資料揃えて、客観的に見て的を絞っていく、そうして必要な支援なり運用をしていくということでやっている訳なんですけど、やっぱりポイントになるのは、最終的には本来支援を必要としている人が、本当に自分がこれが必要だということを実感できる、あるいはこうやってみたら確かにこうなったということを実感できることが最終的には必要じゃないかな。その学力向上をやる場合にね。今まで学力向上というのはずっとそれこそ学校を作ってから今までいろんな取組がなされて今日に至っているんだけど、まだ足りないのはね、学習の主体というか、学習をする側からの課題の捉え方、そういう意味で、私は、例えば学調をやった後に、担任の先生なりが、あるいは中学校であれば担当の教務なりの方で、例えば学習相談なり教育相談なりを通して、それこそ家庭の状況を踏まえて、丁寧に話を聞きながら、その子自身が自分の場合はここが足りない

か、あるいはもう少しここならなんとかがんばれそうだとか、そこを見出していく取組というのが必要じゃないかなということを感じるんです。そういう意味で、学校ではもちろん学期に1回とか2回とか教育相談はやっているんだけど、構えた教育相談のみならず、日常の中での先生と子供たちの関わりとかね、そういうのにちょっと工夫すれば出来る部分が有るんじゃないかなというのがこの前の花巻中学校の公開と、あとは新堀小学校のね、そのちょっとした時間を利用して関わり、しかもそれがただずらっとした関わりじゃなくてポイントを絞って、ああいう取組を皆で持ち寄って、共有して取り組んだらどうなのかなと感じた。いっぱいいろんな施策を今までやって来ているんだけど、どうもストーンと落ちないのは、なんか考えすぎて、働きかける側と、働きかけられる側にミスマッチが出てくるんじゃないかなと感じがして、その辺ちょっと工夫してみたら何か見えてきそうだなというのが1つ。

あともう1つ、家庭も含めて、来てほしいところなんだけれども来てくれない、そういう家庭であればあるほど、本当は、本当の支援を必要としているんだし、やっぱり年数を重ねるごとに支援を求めるということが、なかなか出来なくなってしまっているんですね、そういう困っているところは、そういう意味ではもろに核心部分に触れるんじゃなくて、さっき出てきた郷土芸能でも何でもいい、なにか一緒に共有できるものに参加しながら、実は支援というのはこっちから向かうんじゃなくて、本当に必要としている人がぼっと実は家はこうなんですという、その関係を普段から作っていく取組というのは必要じゃないかなと思ってました。

○上田東一市長 ありがとうございます。今の件についてはどうですか。

○沼田弘二小中学校課長 今、委員長さんからお話頂いた、先生と子どもが実際面談等して個別にどういうニーズなのかということを知る時間というのは本当に必要な事だと思っております。先日授業サポーター、中学サポーターを配置している学校の校長先生とお話しした時に、中学サポーターというのは数学の免許を持った先生に入っているんですが、その先生が入ることによって子どもたちの家庭学習のノート等、丁寧に見られるようになったと、丁寧に見てそれにまる付けをしたりコメントを書いたりということを継続した結果、子どもたちがよく職員室に聞きに来るようになったということで、校長先生はすごく効果的だなと捉えてるというお話がありました。やっぱり日々忙しくて個別に子どもたちに対応できない状況があると思われまますので、ちょっとした時間で触れ合う中で子どもたちの困っていることを吸い上げるということは継続していかなければならないと今お聞きして考えているところです。

○上田東一市長 はい、ありがとうございます。今のでよろしいでしょうか。

直接的に全部答えたわけじゃ無かった感じではありますけれども。

○照井善耕委員長 結局、家庭の問題とかはね、子どもと接触する中で見えてくるんじや

ないか。そこに良いメッセージが子どもから親にも伝わって、じゃあ親の方も相談してみるかというような動きが出来る。新たに関係を作っていこうじゃなくて、今つながっている部分をもっと大事にして、そこから関係が広がっていけばやり易いんじゃないかな、本当に必要な事が出来るんじゃないかな。

○伊藤明子委員 ただ、プライバシーというのは大事ですからね。そこら辺のところですよ。難しいですよ。

○上田東一市長 いろんな手法はあると思いますけども、その中で地域の行事とかについてもご指摘いただきましたし、今の沼田課長の説明だと、ふれあい共育推進員は有効だということですね。

○沼田弘二小中学校課長 はい。

○上田東一市長 これは継続していく必要があると。予算の絡みがあるんですすぐ増やしますとはなかなか言えないと思いますけど、有効性は認識しながら今後どうやって生かしていくかということはさらに検討の余地があることですね。

○沼田弘二小中学校課長 はい。

○上田東一市長 はい、わかりました。

○佐藤勝教育長 よろしいでしょうか。今の委員長さんの話にちょっと関係するかもしれませんが、今回の国の、県の結果で花巻の子ども達、あるいは岩手県の子ども達が自己肯定感が低いという、そこがひとつのいわゆる学力以前の問題だと思いうですね。そこで自己肯定感を高めるのはいったい誰なのかという、もちろん大人であれば自分の力もありますが、やはり小さい頃というのは家族、あるいは先生の立場というのは非常に大きいというふうには思います。この前、保育園のある保護者の方からお話を聞いた時に、その方は学校に上がった子供も、保育園の子供も居るんですけども、保育園の先生方とは毎日会話できる。そうすると自分で家庭での保育をめぐる問題とか、あるいは親としての悩みというのをぶついたり、返してもらったりする、それで非常に安心する。つまり、保育園とか幼稚園では保護者もまだ成長過程の保護者として見ていただける。ただ、小学校・中学校に入ると、学校の先生方は保護者として完成した保護者としか見てくれないような感じがする。あっこれは大事なことだなと。そのところを良く分からないと保護者との連携というのは非常にうまく行かないんだろうなと思いました。具体的にはそれをどうやっていくかとなると、いろんな行事とかで保護者の方とお会いする、そこでいろいろ話し合えるような、あるいは先生方も地域に入って行って、コミュニケーションをとれるような関係をつくるという方策が非常に大事でしょうし、逆に中学校であれば部活動とい

うのも1つで、必ず保護者の方もいらっしゃる。そういったところで認め合ったり、高め合うというか、そういったところもやっていけば、子ども達とも間接的には良くなっていくし、学校と保護者の関係も良くなるだろう、それもまた1つはPTA活動の非常に大きな重点だろうなど最近考えるようになりました。

○上田東一市長 まったく素晴らしいお話だし大事な視点だなと思いましたがけれども、そうすると先生って大変ですよ。あの、ベテランの先生方であればそういう視点でしっかり出来る、なかなか先生自身が成長途中にある中でやっていくというのは大変な作業だなという感じが今お話を聞いていて思いましたがけれども。

○照井善耕委員長 よく保護者から、若い頃だと「なにまだ子ども居なくせに」とかね、そういうお返しが来たりすることがあるわけですよ。だけど、いやいや自分は子どもは居ないけれども、自分が子どもの時に今のような状況だったらとてもとても言うこと聞けないですよと言うような話が出るわけですよ。だから、なにもいっぱい勉強してどっか高くしないと対応できないんじゃないかと、いわゆる花巻であれば花巻市民として、そのためには先生方も幅広い活動した方がいいと思う。どこでも良いから、繋がることを大事にしてそこから、弱みを見せることも必要だし、いやお父さんそこは私分かりません、お父さん方から教えてください。でも良いし、なにかそういう人間関係を作りながら皆で高めていこうという、そういう全体の流れが欲しいような感じがするんだよね。だって、客観的に検査の結果こうですよと言われたって、よしじゃあがんばるぞとはなかなかない。

○佐藤勝教育長 今、国で進めてやってほしいというコミュニティスクール構想というのはまったくそういう所が大きな狙いだと思うんです。ただそれが岩手県で全然やってこなかったかという教育振興運動の中ではそういった要素はあったんですね。そういったことをふまえて私どもではコミュニティというのをある程度見据えながら、コミュニティスクール構想という事業をですね、今矢沢小学区での地域連携でいろんなボランティアの人に入って頂いたりしている試みと、湯口中学校でのメディアルーム、メディア空間、図書とICTを使う空間、あそこに地域の方に入って頂いて、地域の方にコーディネーターに入って頂くという事業をやっていまして、この2つの事例を検証しながら進めていくと今のお話の内容になるようなことについては、かなり大きな手がかりは得られるんじゃないのかな、実験というわけでは無いんですけど、実践に学ぶということで、やって頂いていることは今ございます。

○上田東一市長 はい、それでは他のご質問・ご意見等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

ありがとうございます。本日の議題につきましてはいろんなご意見頂きまして、大変ありがとうございます。教育委員会の事務局の方でも今日の議論をふまえて、いろいろ

今後の方向性をお考え頂きたい、そのように思います。よろしくお願いします。

本日の議題は以上ですのでこれで議長を降りさせていただきます。ありがとうございます。

(4) その他

○市村律教育部長 大変ありがとうございました。それでは、次第の4、その他の方に移らせていただきます。次回、第2回の総合教育会議につきましては、今後事務局において今日頂いたご意見をふまえて、内容を作り上げて協議内容と開催時期を検討いたしまして、市長さん、教育委員の皆さんにそれぞれ協議・相談させて頂き、日程を調整して参りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

何か皆様からございますでしょうか。

○上田東一市長 いじめについてはその後なんか課題とするようなことはあるでしょうか。この前横浜で残念な事件が報道されていますけれども、花巻に於いて課題になっているというようなことは最近無いでしょうか。

○沼田弘二小中学校課長 重大事案については、今現在は無い状況です。

○市村律教育部長 重大な事案じゃなくても情報があがって来ているので、随時相談しながらということで、いずれ未然に防ぐということが一番大事ですので情報だけはまず学校からどんどんあげてもらって。

○上田東一市長 そうですね、早めに学校から教育委員会にあげるということはやって頂くようにぜひお願いします。

○市村律教育部長 はい。ありがとうございます。

(5) 閉会

○市村律教育部長 それでは、以上をもちまして、第1回花巻市総合教育会議を閉会とさせていただきます。大変ありがとうございました。